

答え合わせ・解説

問1	答え 1 倭寇	室町時代初期、日本の海賊集団である倭寇は朝鮮半島や中国沿岸を襲い、周辺地域に深刻な被害を与えました。明の皇帝はこれに苦しみ、室町幕府の足利義満に対して倭寇の取り締まりを強く要請しました。これを受け入れた義満は、倭寇を鎮圧するとともに明との正式な外交・貿易関係を樹立しました。
問2	答え 1 惣	室町時代になると、それまでの領主による一方的な支配に対して、農民たちが団結して地域を運営する「惣（惣村）」が形成されました。この組織は有力な農民（地侍など）を中心に運営され、村独自のルールである「村掟」を定めたり、共同で利用する山林や用水の管理を行ったりしました。これに対し「座」は商工業者の同業者団体、「株仲間」は江戸時代の商工業者の団体、「五人組」は江戸時代の幕領などで組織された隣保組織です。
問3	答え 2 書院造	東山文化は、足利義政が京都の東山に山荘（銀閣）を建てた時期に栄えた文化です。禅宗の影響を強く受け、簡素で深みのある趣を重んじました。その中で生まれた書院造は、畳を敷き詰め、床の間や違い棚、付け書院といった現代の和室にも見られる要素を確立し、武士の対面儀礼の場としても機能しました。
問4	答え 1 謀論旨	建武の新政では、後醍醐天皇による独裁的な政治が行われ、土地の権利などをめぐる訴訟が激増しました。これに対して政治の処理が追いつかず、偽の天皇の命令である「謀論旨（ぼうりんじ）」が横行する事態となりました。二条河原の落書は、このような無秩序な政治や社会不安を皮肉った史料として知られています。
問5	答え 1 勘合（勘合符）	当時、朝鮮半島や中国沿岸で活動していた和寇（前期和寇）を鎮圧することを条件に、明との国交が樹立されました。幕府が発行するこの札を持たない船は私貿易船として取り締まられ、幕府が貿易の利益を独占する仕組みが作られました。
問6	答え 1 港などで物資の保管や輸送、委託販売を行い、物流の中継点としての役割を果たした。	問丸は、鎌倉時代から室町時代にかけて発展した運送業者です。主に港湾や交通の拠点に拠点を構え、荘園から送られてくる年貢米や各地の商品を預かったり、それらを輸送する船の手配、さらには商人と取引する委託販売などを担いました。農村に原料を貸し付けるのは江戸時代に広まった問屋制家内工業、駅での馬の管理は古代の駅制や江戸時代の伝馬制の説明です。
問7	答え 1 オスマン帝国の台頭により、アジアの香辛料を直接入手する新たなルートが求められていた。	当時、ヨーロッパでは肉の保存などに欠かせない香辛料が重宝されていましたが、東方の陸路や地中海ルートはオスマン帝国の支配下にあり、高い関税がかけられていました。そのため、スペインやポルトガルといった大西洋沿岸の国々は、中間搾取を避けてアジアと直接取引するために海路による新航路の開拓を急いでいました。バスコ・ダ・ガマのインド到達（1498年）はコロンブスの到達よりも後の出来事です。
問8	答え 1 倭寇と呼ばれる海賊と正式な貿易船を区別するため	室町幕府の3代将軍である足利義満は、明の皇帝から「日本国王」として認められ、正式な国交を結びました。当時、東シナ海で活動していた海賊である倭寇と、幕府が派遣する正式な貿易船を明確に区別し、密貿易を排除する必要があったため、勘合（勘合符）という合い札を照合させる仕組みが導入されました。
問9	答え 1 自治組織である「惣」に結集した農民が、酒屋や土倉を襲って借金の帳消しを求めた。	室町時代の農民は「惣」という自治組織を通じて強く団結していました。彼らは凶作や重税に苦しむと、金融業者である酒屋や土倉を襲撃し、借金の証文を破壊させるなどの実力行使に出ました。これを土一揆と呼び、幕府に徳政令（借金を帳消しにする命令）を出させる要因となりました。「五人組」は江戸時代の制度であり、キリスト教徒による大規模な蜂起は安土桃山時代から江戸時代初期にかけての出来事です。
問10	答え 1 惣村	室町時代になると、農民が団結して自立的に運営を行う「惣村」が形成されました。惣村では、村の神社などで「寄合」と呼ばれる会議を開き、入会地の管理や用水の配分、年貢の納入交渉などを共同で行いました。こうした自治の広がりは、当時の農民が社会的地位を高めていたことを示しています。